

第3回 光駅周辺地区拠点整備基本構想検討会議

資料

目次

1	前回会議からの課題・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	本事業全体の流れと構想検討フロー・・・・・・・・	10
3	議題	
(1)	アンケート調査結果（確報）について	別冊
	ア 市民アンケート調査	
	イ 光駅利用者アンケート調査	
(2)	地区の課題について・・・・・・・・・・・・・・・・	11
(3)	整備の基本的な方向性（案）について・・・・・・・・	16
4	その他・・・・・・・・・・・・・・・・	21
	今後の取組みとスケジュールについて（想定）	

☆ 「拠点とは何か」について ～光市が求める拠点とは～

光駅周辺地区は、第2次総合計画や都市計画マスタープランにおいて、交通結節機能や主要な都市機能が集積する「都市拠点地区」に位置付けています。並行して策定を進めている立地適正化計画（本構想の上位計画に位置付け）においては、下記のとおり3つの都市拠点地区における「都市づくりの方向性（案）」を示しました。

都市MP位置付け	地区名	都市づくりの方向性（案）
都市拠点地区	光駅周辺地区	<p>【方針】都市機能が集積し、にぎわいに満ちた「都市拠点づくり」</p> <p>施策例①光駅の機能強化と周辺への都市機能の集積 施策例②自然と調和した魅力ある都市空間、にぎわい・回遊空間の形成</p>
	市役所周辺地区	<p>【方針】行政機能をはじめ多様な機能が連携した「都市拠点づくり」</p> <p>施策例①機能連携、民間活力の活用による行政サービスの向上 施策例②文化の振興や交流の活性化</p>
	岩田駅周辺地区	<p>【方針】誰もが安心して住み続けられる、快適で便利な「地域拠点づくり」</p> <p>施策例①地域の拠点としての機能の維持・強化 施策例②利便性の高い農山村環境を活用した移住者受入強化</p>

● **都市機能とは・・・**
 住民生活や企業の経済活動に対して、各種のサービスを提供する都市自体が持つ機能（医療、福祉、子育て支援、教育文化、商業等）



【出典】光市都市再生推進協議会第3回会議資料（H30.3）

都市拠点地区ごとの都市づくりの方向性や、それぞれの地区が担う役割の分担等も踏まえつつ、また、後述する「整備の基本的な方向性」に沿って、光駅周辺地区にどのような機能を集積・配置し、どのような場所（空間）としていくか、今後、皆様との議論の中で見出していきたいと考えます。

☆ 議論の範囲について（目安）

駅を中心に半径500m（一般的な高齢者の徒歩圏）を、現時点における議論の目安となるエリアとして設定します。



<建物用途との重ね合わせ（駅周辺にクローズアップ）>

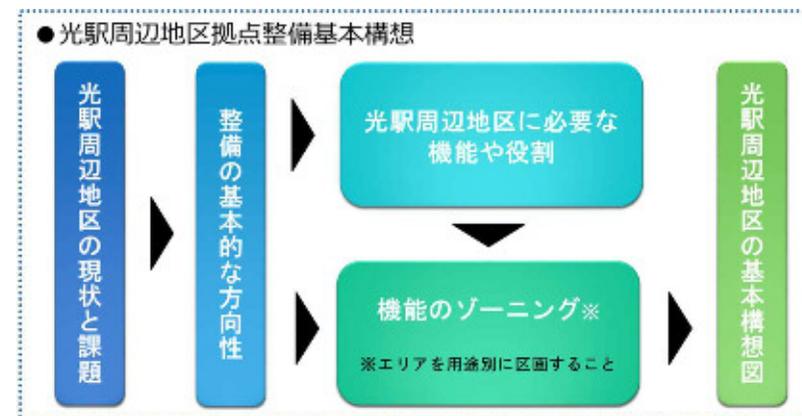


☆ 本検討会議では、何をどのくらいの深さまで議論するのか

本構想の構成イメージは下図のとおり。最終着地点である基本構想図のイメージは、白図上に、機能や土地の利用形態ごとに色分けしたゾーンと、矢印で動線（人や車両等の流れ）などを示し、まちの将来イメージや取組みの骨格を示すものと考えています。

【P4～6の先進事例参照】

⇒ どこまで具体的な施策等を掲載できるかについては、財政的な観点も踏まえ、市で調整・検討します。



- 今後、議論していただきたいことは、

① 方向性がこれでよいか

（課題の解決につながるか、光市にふさわしい拠点の方向性であるか）

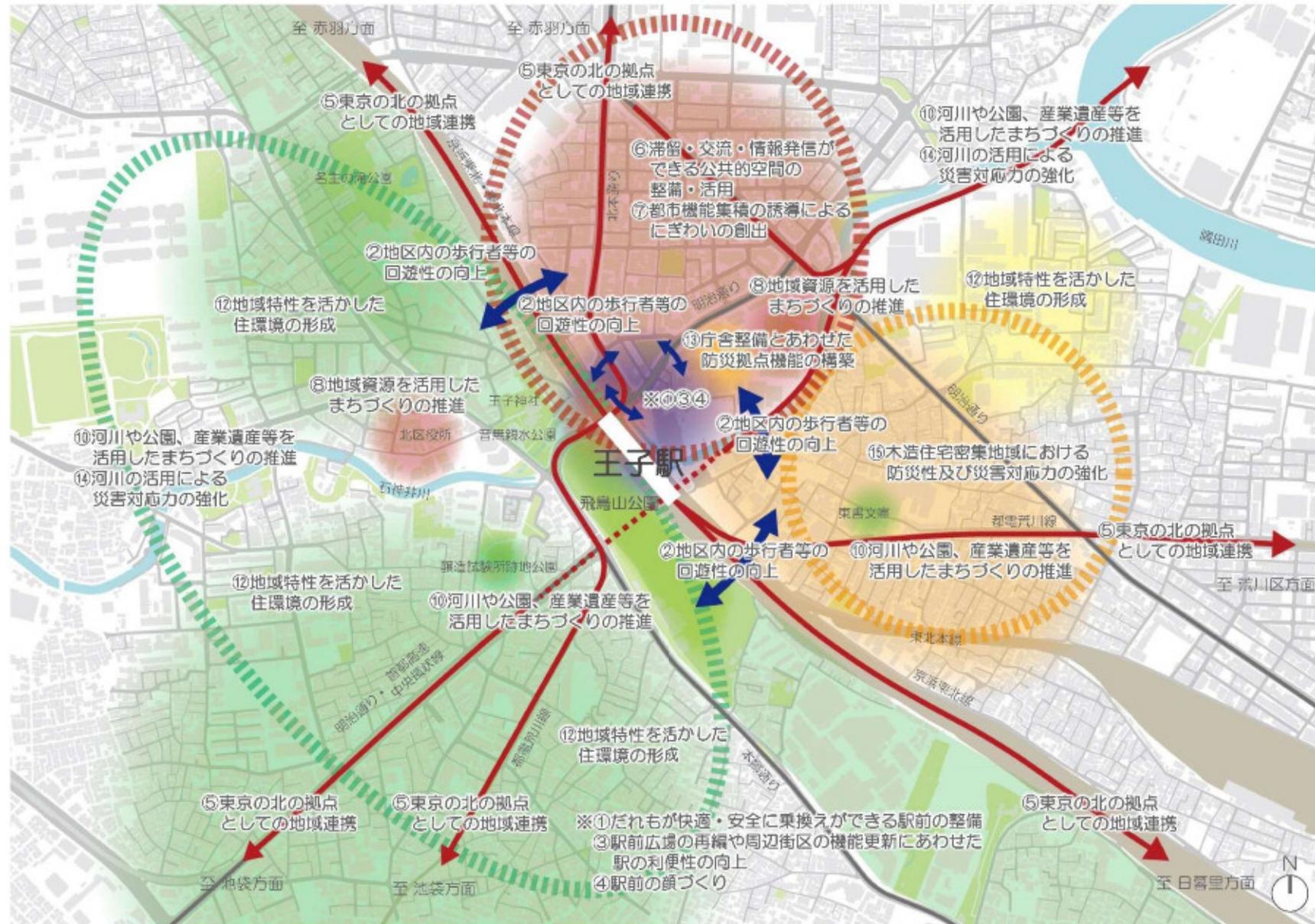
② この方向性を実現するために、どのような役割を持たせ、どのような機能が必要か。

（具体的な施設や規模などを示すのは次以降のステップ。構想では大まかでよい）

③ ②で示す機能はどのエリアにある必要があるか。（大まかに）

1 前回会議からの課題

〈東京都北区「王子駅周辺まちづくりグランドデザイン（H29.7）」より〉



☆ 現状（追加整理分）

(1) 瀬戸風線整備前後の交通量について〈整備前後の交通量比較〉

- 駅北側（北口付近）の交通量が増加

（H22：約4,000台/24h ⇒ H42：約11,000台/24h） +7,000台/24h

- 駅南側（国道188号）の交通量が減少

（H22：約38,000台/24h ⇒ H42：約17,000台/24h） ▲21,000台/24h

【出典】平成22年度道路交通センサスによる推計

(2) 新光総合病院について〈概要、患者数の推移・見込み〉

- 患者数（外来、入院の合算）が増加

（H27：約13.5万人/年間 ⇒ H31：約15万人/年間）

〔・外来 8.5万人〕
〔・入院 5万人〕

〔・外来 9万人〕
〔・入院 6万人〕

	外来患者数	入院患者数
H26（実績）	85,091	47,083
H27（実績）	84,530	49,987
H28（見込）	85,164	51,027
H29（目標）	85,249	51,537
H30（目標）	85,334	52,052
H31（目標）	90,280	60,390
H32（目標）	90,280	60,225

【出典】新光市病院事業改革プランより作成（H29.3）

《新光総合病院の概要》		
・ 建築面積	病院棟	7,842.76 m ²
	付帯施設	586.14 m ²
・ 延床面積	病院棟	17,889.98 m ²
	付帯施設	573.66 m ²
・ 構造	鉄筋コンクリート造4階	
・ 駐車場	470台	
・ 駐輪場	40台	
・ 病床数	210床（現在と同数）	
	〔うち 地域包括ケア病棟 45床〕 〔 緩和ケア病棟 20床〕	
・ 診療科	【既存】内科、外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、婦人科、脳神経外科、小児科、泌尿器科、皮膚科、精神科、麻酔科、リハビリテーション科 【新規】放射線科、総合診療科	
・ 今後の予定	H31.2竣工、H31.5開院予定	

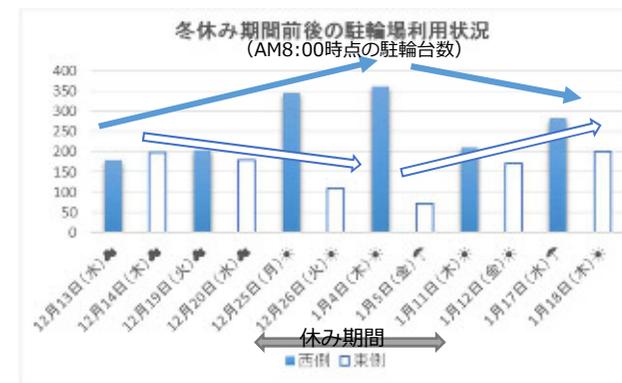
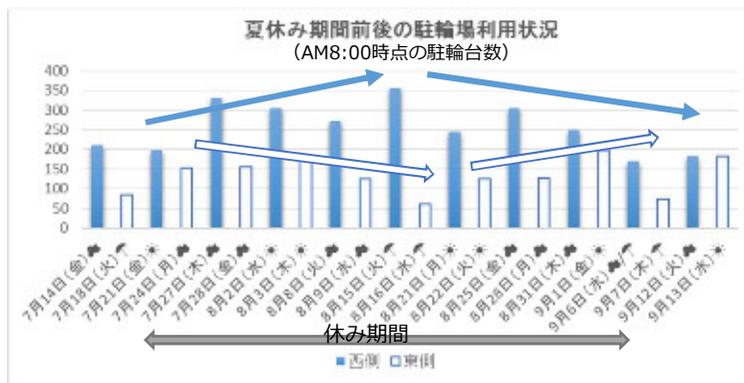
【出典】新光総合病院建設事業実施設計概要（H29.3）

(3) 駐輪場（自転車）の利用状況

- 市からの委託で駐輪場の環境整備を行っている者（朝の通勤・通学の時間帯のみ、以下「環境整備従事者」という。）がいる南口駐輪場（西側、東側）について、夏休み、冬休み期間前後の利用状況（南口のみ）を整理。
- 休み期間中や雨の日（＝自転車を利用しない日）は、西側の駐輪台数が増え、東側の駐輪台数は減る。

＜↑理由の推測＞ 電車で光駅に来訪し、自転車に乗り換える利用者（市外在住の市内高校の生徒など）は主に西側を駐輪拠点としており、休み期間中などは利用しない人が多いため、西側は駐輪台数が減らず多くなる。

一方、自転車で光駅に来訪し、電車に乗り換える利用者（市内在住の市外高校の生徒など）は主に東から本地区に来るため東側に駐輪することが多い。休み期間中は利用せず、雨の日は家族等の送迎が増えるため東側の駐輪台数が減る。



【出典】 駐車場環境整備業務委託報告書

【利用者の属性と利用実態の把握】（環境整備従事者からの聞き取り）

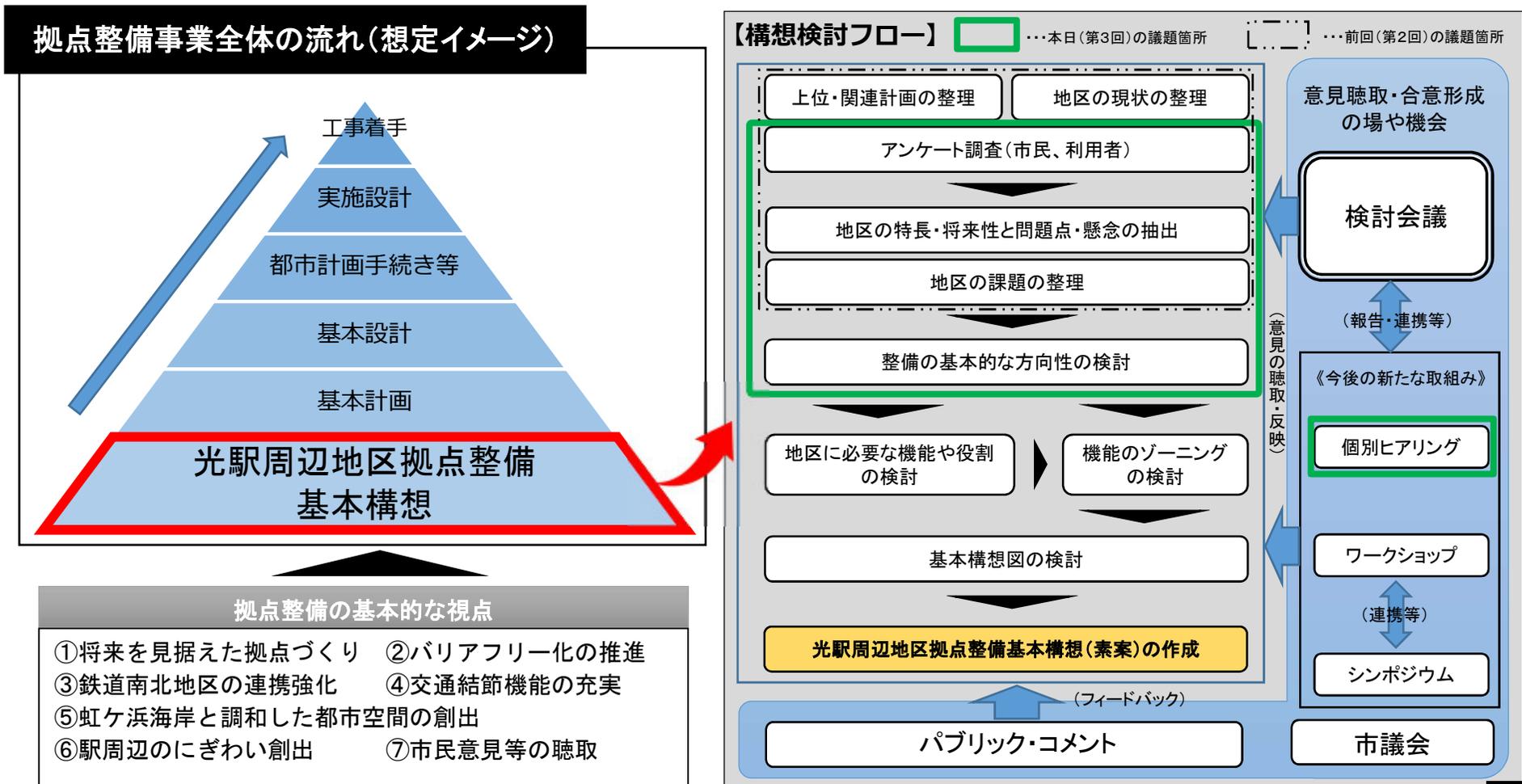
- ・ 上記理由の推測のとおり、西側は、電車で光駅に来訪し自転車に乗り換える高校生が概ねを占める。朝から駐輪台数が減り、夕方に向けて増えていく。一方、東側は、自転車で光駅に来訪し電車に乗り換える高校生が概ねを占める。西側とは逆に、朝から駐輪台数が増え、夕方に向けて減っていく。

（利用者の内訳は、環境整備従事者の感覚で東西とも学生約8割、一般約2割）

- ・ 現状は時間帯ごとの使い分けが上手くできており、今後もし集約を検討するならば出入りの混雑を避ける動線の工夫が必要。
- ・ 一般の利用は、ほぼ通勤で利用する（同じ顔）人が占めている。
- ・ 全体的に東側の利用者が多く、混雑時は西側に移動してもらう。（規模の違い〔西側の方が容量が大きい〕もあるが、電車で光駅に来訪し自転車に乗り換える人よりも自転車で光駅に来訪し電車に乗り換える人の方が多くことが考えられる）

2 本事業全体の流れと構想検討フロー

- 「拠点整備の基本的な視点」を踏まえつつ、下図右の【構想検討フロー】に沿って整理を進めています。
- 本日は、下図右の太線枠の部分についてご意見等をいただきたいと考えています。



ア 個別ヒアリングの実施について（報告）

まちぐるみで取り組む拠点整備の実現に向けて、地元の事情に精通される関係団体の皆様などから、拠点整備に関するご意向などをきめ細かくお聞きするため、少人数で個別にヒアリングを行うこととし、現在、順次取り組んでいます。

先月20日、**光商工会議所青年部の皆さん**と、市の担当者において、地区の課題把握や整備の方向性、今後の具体的な取り組みなどについて意見交換を行いました。

<いただいた主なご意見など>

3つの都市宣言※1、特に「おっばい都市宣言」を意識した子どもや子育て世帯にやさしい整備を。

ターゲットは子育て世代の母子。

出張で市外から人が来ても飲食店がないし、深夜に駅からの交通手段がないので困る。

北側にも山を活かした何かがあってもよいかも。

橋上化は利便性向上につながるが、それだけではダメ。オールシーズンで人を引きつける何かが必要。

ターゲットは通勤・通学する学生や社会人では。

駅は待つところ。書店やカフェがほしい。

駅から虹ヶ浜までを虹色にライトアップするなど、ワンポイントで人が集まるような仕掛けを。

鹿児島市の屋台村の取り組み※2は参考になる。

南北連携の強化のため、駅の近くで南北を車が行き来できる道路の整備を。

※1 「おっばい都市宣言」、「自然敬愛都市宣言」、「安全・安心都市宣言」

※2 郷土料理などを提供する個性的な屋台が連なる観光施設。NPO法人が運営し、中心市街地の活性化や市の玄関口における「おもてなし」の場の創出、若手企業家の育成などに貢献している。

イ 地区の特長・将来性と問題点・懸念について

現状や市民意向を踏まえ、特長や将来性（良いところ、将来に希望が持てる場所：G...Good!）と問題点や懸念・要望（改善を要する場所、今後に懸念がある場所：B...Bad!）の両面について、4つの分野別に整理しています。アンケート調査結果を踏まえ追記しました。

※下線・・・追加部分

	特長や将来性 (良いところ、将来に希望が持てる場所：G...Good!)	問題点や懸念・要望 (改善を要する場所、今後に懸念がある場所：B...Bad!)
1 人口について	<ul style="list-style-type: none"> 本地区北側に位置する虹ヶ丘団地は、本市で最も人口が集中しているエリアであり、本地区は“にぎわい”の創出に必要な不可欠な人口の集積があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 市全体で人口減少や少子高齢化が進む中、駅周辺地区においても将来、急激に人口密度の低下が予測されるなど、一層の地域の活力低下や人のつながりの希薄化が懸念されます。
2 土地利用・建物について	<ul style="list-style-type: none"> J R山陽本線南側は現状で2階建て程度の建物が多く、空地も増加しており、都市機能の集積に向けて、今後、土地の高度利用の可能性がります。 <u>アンケート調査によると、西部地域・南部地域に商業・業務・教育の施設が立地していることから、日常生活において、光駅周辺地区に行く人が多くなっています。また、光駅を高頻度で利用する人が多くなっています。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 光駅の南北の地形には高低差があるとともに、その連絡は老朽化が進む跨線橋や駅から離れた道路に限られており、鉄道でまちが分断されている状況です。<u>(駅利用者アンケートによると、西部地域(特に虹ヶ丘団地)の居住者は北口、その他の地域は南口の利用者が多くなっています。)</u> 本地区は地価の下落傾向が続いており、周辺不動産の資産価値やまちの魅力低下につながる懸念がります。(地価下落の要因は、人口減少など様々なものが考えられます。) <u>市民アンケートによると、本地区は「生活利便性」、「交通利便性」、「回遊性」などの利便性の向上が求められています。</u>

	<p>特長や将来性 (良いところ、将来に希望が持てる場所：G...Good！)</p>	<p>問題点や懸念・要望 (改善を要する場所、今後に懸念がある場所：B...Bad！)</p>
<p>3 都市機能について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交番が本地区全体の安全・安心の面で、大きな支えになっています。 ・全国有数の観光資源、白砂青松の虹ヶ浜海岸との連携は、魅力的な都市空間づくりという観点から、大きな将来性と可能性を秘めているといえます。 ・JR山陽本線北側には本市最大の居住地である虹ヶ丘団地が立地していますが、瀬戸風線の整備や光総合病院の移転新築、駅周辺地区の拠点整備などの今後の都市構造の変化に伴い、生活環境の大きな変化が予想されます。 ・<u>「現状のままで良い」との回答も多くなっており、過度な都市化ではなく、虹ヶ浜など、「自然」を活かした整備も求められています。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内には、一定の商業機能や医療機能などが立地していますが、現状では都市機能が集積しているとはいえない状況です。 ・老朽化した施設を中心にバリアフリーへの対応が不十分であり、高齢者や身体等が不自由な方にとって、利用の大きな障害になっている部分があります。 ・<u>市民アンケートによると、「商業機能」、「医療機能」、「行政機能」などが求められています。</u> ・<u>アンケートによると、光駅周辺で今後必要と思われる機能は、ソフト事業についての意見が少なく、基本的にハード事業に優先して取り組むことが求められています。</u>
<p>4 交通について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸風線の整備や光総合病院の移転新築などにより、近い将来、本地区を取り巻く交通環境は大きく変化することが見込まれ、交通結節点・交通拠点としての機能強化が期待されます。 ・本地区を經由する東西方向のバスは運行便数が多く、一定の高い利便性を有しています。 ・南北の駐車場は、駐車可能台数に対して日平均駐車台数が6割弱と、駐車場の規模や土地の有効活用について十分に検討する余地があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市は通勤・通学地の移動手段として自家用車への依存度が高く、公共交通を利用する人が少ない状況であり、今後、公共交通のサービスの維持が困難になるほか、交通弱者をはじめとした移動利便性の低下が懸念されます。 ・バス停が3箇所に分散し、利便性の低下を招いています。 ・南北の駅前広場においては、送迎用の駐車スペースが不十分で路上停車などが多発しているほか、南口においては通過交通の流入などもあり、特に朝夕ラッシュ時の安全性や送迎の利便性には懸念があります。 ・南口の駐輪場は2箇所に分かれているとともに、利用台数が超過することもあり、概ね混雑している状況であることから、路上駐輪など利用マナーの低下も懸念されています。 ・<u>アンケートによると、「公共交通機能」の強化が求められています。</u> ・<u>光駅利用者アンケートによると、「利便施設（トイレや売店など）」、「送迎用の自動車の駐車スペース」の今後の整備が望まれています。</u>

ウ 課題について

アンケート調査結果や現状を踏まえ、課題を再整理します。

※下線・・・追加、修正部分

1 時代の潮流の把握と対応

本地区を取り巻く環境は、将来見込まれる人口減少や少子高齢化の進行などの人口構造の変化に加え、都市計画道路瀬戸風線の整備や光総合病院の移転などによる都市構造、人口流動、交通環境、教育環境などの大きな変化が見込まれ、長期的な視点から重要な過渡期を迎えています。

今後、本地区には、“地域集約型都市構造”における“都市拠点地区”として、都市機能の集積や高度化等が求められるとともに、変わりゆく市民等のニーズも十分に踏まえた対応が重要となります。そのため、これからの拠点整備にあたっては、こうした時代の潮流を的確に把握し、将来を見据えた本市の玄関口としてふさわしい魅力ある拠点づくりを目指す必要があります。

2 誰もが安心して利用できる環境整備

高齢化の進行に伴い、バリアフリーの重要性は高まる一方で、本地区に存在する各種施設は老朽化が進んでおり、バリアフリーに対応する施設は一部に限られています。

今後の拠点整備を進めるにあたっては、国の「移動等円滑化の促進に関する基本方針」の趣旨を十分に踏まえ、旅客施設をはじめとした駅周辺の都市施設も含めたバリアフリーのあり方を総合的に検討するとともに、都市機能の整備や既存施設の改修、「心のバリアフリー」も大切にした環境づくりを進めるなど、「共生社会」の理念に沿って誰もが不自由なく利用できる空間づくりを進めていく必要があります。

また、防災・減災や防犯などの面からも安心して利用できる環境整備が求められます。

3 光駅南北地区の連携強化

光駅は多くの市民や来訪者が利用する主要交通結節点であるとともに、駅南側の商業地と、駅北側の住宅地を連絡する機能を有しています。しかし、地形上、駅の南北には高低差があり、現在は階段を伴う虹ヶ丘跨線橋でのみで接続されていることから、南北地域の円滑な連携が不十分な状況です。また、同跨線橋は老朽化も進行し、安全面上の懸念も生じています。

そのため、同跨線橋の架け替えを前提とし、さらに、鉄道事業者との連携・協力のもと駅舎と一体となった整備のあり方について検討を深め、効果的、効率的に安全性の確保と南北地域の連携の強化を図っていく必要があります。

4 主要交通結節点としての機能向上

本地区においては、鉄道はもとより、バス、タクシー、自家用車、自転車、徒歩など様々な交通が交差、接続しています。「光市地域公共交通網形成計画」では、本駅を「主要交通結節点」として、「主たる交通の拠点となり、主要幹線同士、主要幹線と幹線・支線の乗継が行われる」場所として位置付けています。

こうした位置付けを踏まえつつ、本市・本地区をとりまく環境の変化を見据えた上で、本地区にふさわしい利便性の高い持続可能な公共交通ネットワークを構築していく必要があります。

一方では、市民の移動における交通手段については、自家用車への依存率が高く、公共交通の利用者が少ない状況にあり、引き続き、一定の交通弱者の移動利便性を確保するためには、自家用車が利用しやすい環境づくりと公共交通の利便性向上、利用促進を両立し、主要交通結節点としての機能の向上を図っていくことが求められます。

5 周辺の美しい自然との調和

虹ヶ浜海岸は、白砂青松の美しい景観を有し、夏季には多くの海水浴客が訪れる本市の主要な観光地であり、現在でも本地区は、「虹をあしらった駅舎」や「松の植栽」、「なぎさへの道」などを通して、海岸に近接した独特の情緒を感じ取ることができます。

今後、拠点整備を通して、本地区が本市の「まちの顔」として、より一層、魅力ある都市空間となっていくためには、大きな強みである美しい景観、観光資源とのつながりを、これまで以上に意識した空間づくりが求められます。

6 “にぎわい”あふれる空間づくり

現在、光駅周辺には商業施設や宿泊施設、医療機関など一定の都市機能が立地していますが、どの機能も“集積”といえる状況にはありません。また、多くの市民が交流する場や施設はほとんど立地していない状況です。

そのため、本地区においては、都市機能の誘導・集積による“にぎわい”の創出とその継続に向けて、多くの人が集い交流する場を確保するとともに、多面的な役割を担う緑地などの環境整備や、拠点整備と一体となった商業のあり方についても検討するなど、時代の潮流や市民のニーズ等も踏まえた創意工夫のあるまちづくりが求められています。

7 協働と連携による都市拠点づくり

光駅周辺地区のまちづくりを進めるにあたっては、行政だけでなく、市民、地域住民をはじめ、専門家、事業者、関係団体、地権者等、多くの知恵と力の協働・連携が不可欠です。

構想の策定段階から事業の完了、将来の維持管理まで見据え、多様な主体が連携して本拠点整備に関われるよう、必要な意識の醸成を図りつつ、「チーム光市」の総力を挙げて未来につなぐ拠点整備となるよう、取り組む必要があります。

課題を踏まえ、3つの視点から整備の基本的な方向性を整理します。



市民をつなぐ

人にやさしい
ユニバーサルデザインの
空間づくり

キーワード

安全・安心、利便性

- 障害の有無、性別、年齢等に関わらず、すべての人にやさしいユニバーサルデザインの考え方にに基づき、ハード・ソフトの両面から、誰もが安心して利用できる環境づくり
- 鉄道事業者との連携、協力のもと、JR光駅の橋上化及び虹ヶ丘跨線橋の一体的な整備に向けて取り組み、駅南北地区の連携強化と安全を確保
- 新光総合病院との連絡をはじめ、鉄道、バス、タクシー、自動車、自転車、徒歩など多様な交通の円滑な連携・接続とともに、安全を十分に確保した利用しやすい交通環境の整備

市民がつどう

心やすらぐ
癒しと活気が両立する
空間づくり

キーワード

にぎわい、自然との調和

- 新たな都市機能の誘導と既存の都市機能活性化の相乗効果により機能の集積と高度化を図り、市内外から人が集まり交流できる“来たくなる場所づくり”
- 虹ヶ浜海岸と松林からなる景観の保全と、駅近接エリアとの一体感、連続感に磨きをかけ、“癒し”を提供する都市空間を創出
- ソフト事業を中心に、市民、事業者、行政など多様な主体が連携し、創意工夫を凝らしてにぎわいを生み出す仕掛けについて検討

市民で つくる

未来につなぐ
一人ひとりが主役の
空間づくり

キーワード

協働、民間活力

- まちづくりへの参画を促すための取組みを積極的に行い、まちぐるみ、地域ぐるみで地区の将来像を共有し、今後のあり方を考えていく機運の醸成
- 魅力的かつ効果的な事業推進に向け、民間のノウハウや企画力、資金などの活用についての積極的な調査・研究
- 時代の潮流や、日常的に駅を利用する市民、将来にわたって整備結果を享受する若者等の意向やニーズを、継続的、かつ的確に捉えた本市にふさわしい玄関づくり

3 議題 (3) 整備の基本的な方向性(案)について

上位関連計画の整理(留意すべき方向性)

上位・関連計画の整理(キーワード)

- **土地利用・建物について**
 - 多核連携都市づくり
 - 市民の利便性向上やまちの賑わい創出
 - 潤い豊かな都市景観の確保
- **都市機能について**
 - 都市機能や交通結節機能の高度化
 - 観光資源の魅力発掘や磨き上げ
 - 都市のにぎわいと生活の利便性の向上
- **自動車・公共交通等について**
 - 拠点機能の強化に向けた検討
 - 利用者の利便性向上のための取組
 - 市民ニーズへの対応
- **官民連携について**
 - 広い市民の参画を促す取組み
 - 公的サービスの開放に向けた制度設計
 - 市民、事業者、行政が一体となった良好な景観形成

市民意向(現状やニーズの把握)

市民意向の整理(抜粋)

- **問題点について**
 - 商業施設などの「にぎわい」が不十分なこと
 - 虹ヶ浜海岸に近接する魅力を生かしていない
 - マイカーの送迎や、バス、タクシー等の交通が混在
 - バリアフリー化が不十分
- **施設等の改善に向けたニーズ度について**
 - 「利便施設(トイレ、売店、情報提供など)」、「送迎用の自動車の停車スペース(容量、位置など)」、「駅の南北地区をつなぐ橋(幅、スロープ、階段など)」、「まちの玄関としての個性・魅力(外観、シンボルなど)」の改善に対するニーズが高い。
- **必要な都市機能について**
 - 「商業機能」、「公共交通機能」、「観光交流機能」、「行政機能」など利便性の向上や賑わいの創出につながる機能を求める人が多い。
 - 「今のままでよい」との回答も一定程度あり、過度な都市化ではなく、虹ヶ浜海岸などの自然を活かした整備も求められている。
- **望む将来像について**
 - 生活利便性が高い地区(商業施設、生活関連施設)
 - 癒しと安らぎにあふれる地区(海岸との調和)
 - 交通利便性の高い地区(公共交通、駐車場等)
 - 誰もが安心して回遊できる地区(バリアフリー)
 - 「にぎわい」の拠点となる地区(交流)
 - まちなみの景観が優れた地区(本市の玄関)

光駅周辺地区の特長、将来性、問題点、懸念

- **人口について**
 - にぎわいの創出に不可欠な人口の集積がある。
 - 人口密度の低下、地域の活力低下、人のつながりの希薄化が懸念される。
- **土地利用・建物について**
 - 南側では現状低層の建物が多いなど、都市機能の集積に向けて、今後、土地の高度利用の可能性がある。
 - アンケートによると、西部・南部地域に商業・業務等の施設が立地し、光駅周辺地区に行く人が多くなっている。
 - 光駅の南北の地形には高低差があり、鉄道でまちが分断している。
 - 地価の下落傾向が続いており、周辺不動産の資産価値やまちの魅力低下が懸念されている。
 - 市民アンケートによると、本地区は利便性の向上が求められている。
- **都市機能について**
 - 交番が安全・安心の面で、大きな支えになっている。
 - 虹ヶ浜海岸との連携は、魅力的な都市空間づくりという観点から、大きな将来性と可能性を秘めている
 - 虹ヶ丘団地では、今後の都市構造の変化に伴い、生活環境の大きな変化が予想される。
 - 「現状のままで良い」との回答も多くなっており、虹ヶ浜など、「自然」を活かした整備も求められている。
 - 都市機能が集積しているとはいえない状況である。
 - バリアフリーへの対応が不十分であり、利用の大きな障害になっている。
 - 市民アンケートによると、「商業機能」、「医療機能」、「行政機能」などが求められている。
 - アンケートによると、光駅周辺で今後必要と思われる機能は、ハード事業を優先することが求められている。
- **交通について**
 - 交通環境の大きな変化が見込まれ、交通結節点・交通拠点としての機能強化が期待される。
 - 本地区を経由する東西方向のバスは運行便数が多く、一定の高い利便性を有している。
 - 南北の駐車場は、駐車場の規模や土地の有効活用について十分に検討する余地がある。
 - 今後、公共交通のサービスの維持が困難になるほか、移動利便性の低下が懸念される。
 - バス停が分散し、利便性の低下を招いている。
 - 送迎用の駐車スペースが不十分なことや通過交通の流入により、安全性や送迎の利便性には懸念がある。
 - 南口の駐輪場は分散し、混雑している状況であることから、路上駐輪など利用マナーの低下が懸念される。
 - アンケートによると、「公共交通機能」の強化が求められている。
 - 光駅利用者アンケートによると、「利便施設(トイレや売店など)」、「送迎用の自動車の停車スペース」の今後の整備が望まれている。

光駅周辺地区の課題

- **時代の潮流への対応**
 - 都市構造、人口流動、交通環境、教育環境などの変化や市民のニーズの変化などを的確に捉え、将来を見据えた拠点づくりを目指す必要があります。
- **誰もが安心して利用できる環境整備**
 - 「共生社会」の理念に沿って誰もが不自由なく利用できる空間づくりを進めていく必要があります。
 - また、防災・減災や防犯などの面からも安心して利用できる環境整備が求められます。
- **光駅南北地区の連携強化**
 - 跨線橋の架け替えを前提とし、さらに、鉄道事業者との連携・協力のもと駅舎と一体となった整備のあり方について検討を深め、効果的、効率的に安全性の確保と南北地域の連携の強化を図っていく必要があります。
- **主要交通結節点としての機能向上**
 - 本市・本地区をとりまく環境の変化を見据えた上で、本地区にふさわしい利便性の高い持続可能な公共交通ネットワークを構築していく必要があります。
 - 自家用車が利用しやすい環境づくりと公共交通の利便性向上、利用促進を両立し、主要交通結節点としての機能の向上を図っていくことが求められます。
- **周辺の美しい自然との調和**
 - 本地区が本市の「まちの顔」として、より一層、魅力ある都市空間となっていくためには、大きな強みである美しい景観、観光資源とのつながりを、これまで以上に意識した空間づくりが求められます。
- **“にぎわい”あふれる空間づくり**
 - 都市機能の誘導・集積による“にぎわい”の創出とその継続に向けて、多くの人が集い交流する場を確保するとともに、多面的な役割を担う緑地などの環境整備や、拠点整備と一体となった整備のあり方についても検討するなど、時代の潮流や市民のニーズ等も踏まえた創意工夫のあるまちづくりが求められています。
- **協働と連携による都市拠点づくり**
 - 構想の策定段階から事業の完了、将来の維持管理まで見据え、多様な主体が連携して本拠点整備に関われるよう、必要な意識の醸成を図りつつ、「チーム光市」の総力を挙げて未来につなぐ拠点整備となるよう、取り組む必要があります。

基本的な方向性

- **市民をつなぐ**
人にやさしいユニバーサルデザインの空間づくり
 - 障害の有無、性別、年齢等に関わらず、すべての人にやさしいユニバーサルデザインの考え方に基づき、ハード・ソフトの両面から、誰もが安心して利用できる環境づくり
 - 鉄道事業者との連携、協力のもと、J R光駅の橋上化及び虹ヶ丘跨線橋の一体的な整備に向けて取り組み、駅南北地区の連携強化と安全を確保
 - 新光総合病院との連携をはじめ、鉄道、バス、タクシー、自動車、自転車、徒歩など多様な交通の円滑な連携・接続とともに、安全を十分に確保した利用しやすい交通環境の整備
- **市民がつどう**
心やすらぐ癒しと活気が両立する空間づくり
 - 新たな都市機能の誘導と既存の都市機能活性化の相乗効果により機能の集積と高度化を図り、市内外から人が集まり交流できる“来たくなる場所づくり”
 - 虹ヶ浜海岸と松林からなる景観の保全と、駅近接エリアとの一体感、連続感に磨きをかけて、“癒し”を提供する都市空間を創出
 - ソフト事業を中心に、市民、事業者、行政など多様な主体が連携し、創意工夫を凝らしてにぎわいを生み出す仕掛けについて検討
- **市民でつくる**
未来につなぐ一人ひとりが主役の空間づくり
 - まちづくりへの参画を促すための取組みを積極的に行い、まちぐるみ、地域ぐるみで地区の将来像を共有し、今後のあり方を考えていく機運の醸成
 - 魅力的かつ効果的な事業推進に向け、民間のノウハウや企画力、資金などの活用についての積極的な調査・研究
 - 時代の潮流や、日常的に駅を利用する市民、将来にわたって整備結果を享受する若者等の意向やニーズを、継続的、かつ的確に捉えた本市にふさわしい空間づくり

